



別紙3	令和8年度	自己評価書（中間）	作成日：令和8年9月3日	国分寺市立第四中学校	校長名 田中 一郎
教育目標：すすんで学び 心身ともに健康で 思いやりのある人になる					
めざす学校像：①生徒の人格が尊重される学校 ②豊かな人間関係とより良い校風を育む学校 ③生徒の未来を見据えた学力を育む学校					
めざす生徒像：「自己表現できる生徒・互いに認め合える生徒・粘り強く取り組み生徒」(令和6年度改訂)					
めざす教師像：①生徒の人格と多様性を尊重する教師 ②より良い集団をつくり個々を育てる教師 ③ 授業を通して生徒の未来を明るくする教師					

項目			中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かな人間性の育成	1	豊かな心	・人権教育の充実 ・道徳教育の充実 ・特別活動の充実 ・生活指導の充実 を通して、自分の良さや可能性に気づき、互いを認め合う豊かな人間性を育成する。	全教育活動を通して、心を育てる教育を推進し、いじめ防止教育の充実に努め、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	①人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。 ②「いじめ防止基本方針」に則り、いじめ防止教育を徹底する。 ③教育活動全体を通して、互いを認め合い、よりよい校風を育む。	3	<12月> 集計	4	<12月> 集計	道徳や学級活動を通して、思いやりや相互理解を育む指導を継続するとともに、学校行事や生徒会活動において互いを認め合う場を意図的に設定し、人権意識の向上といじめの未然防止につなげていく。	○「互いを認め合う姿勢」については、挨拶などの取組が考えられるが、内向的な生徒への過度な強制には配慮が必要。 ○人権意識や多様性を尊重する姿勢は着実に育っており、いじめ防止や人権教育の成果も見られる。 ○今後は、学校での取組や行事の様子を保護者へ発信し、CSもその役割を担うことが期待される。 ○自己尊重と他者を思いやる心を育て、基本的生活習慣の定着に向けた取組を継続していきたい。
	2	生活		認め合う姿勢を醸成し、社会的資質や行動力の向上を図るとともに、困難をしなやかに乗り越え回復する力を育む。	①基本的生活習慣を確立する。(時間を意識した生活) ②挨拶の日常化を図る。(自然な挨拶) ③主体性をもってチャレンジさせ、自己実現を体現させる。(自主的な行動)	3	<12月> 集計	4	<12月> 集計	今年度から実施している、全校でのあいさつ表彰を継続し、学級活動や学校行事を通して、基本的生活習慣の定着と互いを認め合う活動を充実させる。	
確かな学力の定着	3	基礎	・基礎的・基本的な知識・技能の向上 ・思考力、判断力、表現力の向上 ・生徒の視点に立った授業改善を通して、豊かな未来を創造する確かな学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの実践を通して、基礎的・基本的事項の習得を図る。	①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組む。 ②ICT機器の効果的な活用を推進する。 ③読書活動を充実させる。	3	<12月> 集計	3	<12月> 集計	個々の学習状況を見とるとともに、QU（満足度アンケート）によって、学習に対する不安を把握し、個別の指導方法の工夫改善を図る。	○授業改善やICT活用が進み、生徒・保護者の評価が高いことは、大きく評価できる。一方で、基礎的な学習内容に不安を抱える生徒が一定数いるという結果は重要な示唆であり、QUを活用した早期把握と個別支援の取り組みが今後さらに求められる。協働的な学びについても、生徒の不安を解消すべく、グループ編成や活動内容の工夫を進めることで、学ぶ環境を整えることが重要かと思います。 ○地域学校協働本部との連携をすすめ、地域の大人の知見を活用していきたい。
	4	活用		個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をもとに、思考力、判断力、表現力の向上を図る。	①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、生徒自らが学ぶ姿勢を取り入れた授業改善に取り組む。 ②体験活動を取り入れた、探究的な学びによって自ら学ぶ力を育成する。 ③1人1台端末を活用し現代の諸問題を主体的に捉え解決しようとする意欲を育てる。	4	<12月> 集計	3	<12月> 集計	グループ編成を工夫するとともに、活動内容の多様化など、授業改善を図る。生徒が主体的に取り組めるような対話的活動を実践していく。	
たくましい心身の育成	5	支援	すべての子どもたちを大切に教育を推進する。	特別支援教育の視点に立った、一人ひとりに応じたきめ細かな対応を充実させる。	①特別支援教育の視点に立ち、寄り添う指導・支援を全教員で実践する。 ②サポート教室の整備や関係機関との連携を通して、必要な支援を行う。 ③多様な学び支援担当教員を活用し、困り感を抱えた生徒や保護者に寄り添い、課題の解決に向けて取り組む。	4	<12月> 集計	3	<12月> 集計	継続してQUや生活アンケート等を定期的にとり、分析・共有したことをもとに生徒指導を行い、多様な学び支援担当教員やサポート教室を活用し、生徒・保護者それぞれに最適な支援が行われるようにする。	○運動が苦手な子がいるのも仕方のないこと。運動が苦手な子もそれで良いと思える自己肯定感を大切に指導していく。 ○体力向上や安全教育については評価が高い。学校だよりなどで、指導の意図や改善点について情報発信し、保護者の理解につなげていく。 ○すべての子どもたちを大切に教育の多大な成果に期待したい。さらなる工夫・改善に務め、より大きな成果をあげてほしい。
	6	体力・安全	健やかな身体の育成と、体力向上に向けて取り組む。	健康で安全に生活する力を育成する。	①保健体育の授業や運動が好きなような取組をととして運動習慣を確立させる。 ②安全指導、避難訓練等を通して、主体的に自他の命を守れるようにする。	3	<12月> 集計	3	<12月> 集計	昼休みの校庭や体育館の解放を通して運動を奨励し、習慣になるよう促していく。安全指導や避難訓練の工夫・改善点を学校だよりや四中ブログなどで情報発信する。また、安全指導や避難訓練の意義、指導内容を工夫・改善していることを生徒にも伝える場面を設定する。	
学校・家庭・地域の連携	7	特色	特色ある教育活動を充実させる。	国分寺学の実践を通して、地域を考え、地域に貢献する生徒の育成を図る。	①9年間の学習活動の集大成として、3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習を実施する。 ②3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習では、体験と地域への貢献を必ず取り入れる。	3	<12月> 集計	4	<12月> 集計	本校では各学年の国分寺学の取組を保護者や地域に発表する機会を設けているが、さらに学校だよりや四中ブログなどで発信することで、より理解が深まると考えられる。	○地域学校協働本部の取り組みが中学での教育に良い作用をもたらすことを願っています。 ○国分寺学×SDGsの探究活動は、生徒の肯定的評価が非常に高く、確実に成果が上がっているのではないかと思います。一方で、保護者の理解がやや低い傾向が見られるため、発表機会の拡充や情報発信により理解を深めてもらう取り組みが必要かと思います。地域連携については、3年生に比べて1・2年生の地域体験の機会が少ないというところが課題として明確なようなので、地域学校協働本部と連携して、しっかりと取り組んでいくべきだと思います。 ○「国分寺学」は地域と学校の連携を支える重要な試みだ。地域とともにある学校づくりに向けて努力していきたい。
	8	連携	地域とともにある学校づくりを推進する。	コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域との連携・協働を進める。	①9年間の学習活動の集大成として、3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習を実施する。 ②3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習では、体験と地域への貢献を必ず取り入れる。	3	<12月> 集計	3	<12月> 集計	1年生の職業学習において、地域と連携した探究活動を設定していく。また、2年生の職場体験では、お世話になった事業所に恩返しをするような取組を検討していく。	
働き方改革	9	連携	全教職員が教育の質の維持向上を目指し、生き生きと、やりがいをもって取り組む。	1箇月時間外在校等時間が45時間以下の割合を100%にする。 学校評価(教職員)で、働きがいを感じられる、の肯定的評価を90%にする	①支援職員や地域人材、教育DX等を活用した、学校以外が担うべき業務の移行を推進する。 ②学校電話の留守番電話対応時間を延長し、録音機能を追加する。	3	<12月> 集計			業務を支援職員に任せる部分を増やしていくほか、部活動の地域移行について、全教員で理解しながら進めていく必要がある。また、地域学校協働本部とも連携して、継続的なサポートの在り方を模索していく。	○地域学校協働本部にできることはチャレンジしていければと思います。 ○教職員が働きがいを感じているという結果は、大きな成果かと思っています。部活動の地域移行や支援職員の活用が進む中で、負担軽減が実現している部分と、まだ課題が残る部分があることも示されています。地域学校協働本部との連携を深めながら、学校以外が担うべき業務の移行を進めることで、持続可能な働き方がより実現しやすくなると考えます。地域学校協働本部の機能強化は、児童の教育活動の充実だけでなく、教職員の働き方改革にも直結する重要なテーマになるので、地域の多様な人材を学校活動に参画させ、地域で子どもを育てる仕組みを早期に確立することは喫緊の取り組み課題だと思います。そのためにも学校を地域にもっと開いていくことをお願いしたいと思います。学校が地域のハブとして機能するように取り組んでいきたいと思っています。 ○先生方が「生き生きとやりがいを持って取り組む」ことができるように微力を尽くしたい。

解説 この「自己評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、努力指標と成果指標を分析し、改善策を提示したものです。
「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4（ほとんど達成した）、3（達成できた部分が多い）、2（達成できない部分が多い）、1（ほとんど達成されていない）となります。
「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果（ABCD4段階）を総合した評価です。AB合計の%数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。